

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2991600020		
法人名	有限会社 かもん		
事業所名	グループホーム メイプル・メイプル		
所在地	奈良県生駒郡斑鳩町興留3-2-6		
自己評価作成日	令和3年12月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=2991600020-006&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	Nネット
所在地	奈良市高天町48-6 森田ビル5F
訪問調査日	令和4年2月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設から9年目を迎え、開設当初より入居されている方も多数おられ、第2の我が家と思って頂ける空間作りに努めています。たとえ認知症を患っていても楽しみを見出し笑顔溢れる毎日を過ごせるよう、コロナ禍でも可能な限りの外出援助を積極的に行っています。今年は生駒山上遊園地や奈良公園、馬見丘陵公園のイルミネーション見学等へ出かけました。入居者様だけではなく職員も一緒に楽しみを共有することで馴染みの関係となりお互いが助け合えられの関係性で過ごして頂けます。また、かもん自家農園で採れる野菜、果物の収穫やそれらを使用した手作りの食事やおやつを職員と一緒に楽しんでいただいています。技能実習生が新たに加わり、職員はお互いに日々学びながらスキルアップを図り、入居者様が快適かつ安心安全に過ごせるよう介護技術の向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営法人は、大和郡山市・大和高田市・生駒郡斑鳩町で認知症対応型グループホームを運営している。事業所は、JR法隆寺駅から徒歩10分と便利な場所にあり、建物は木造造り2階建てで、2ユニットのグループホームである。食事は、ホームで作った野菜なども取り入れたバランスの良い手作りのものを提供している。また、天気の良いは毎日近隣を散歩し、たまに遠出もしている。職員に対する計画的な研修、評価制度、明確なキャリアパスなどを実施し、職員の意欲向上に資する制度も整えている。人権を尊重し、身体拘束を一切しない、ごく普通の家庭生活を楽しめる様に、入居者の立場に立った介護サービスを提供している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

※セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップへ向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見やすい場所に掲示し、管理者、職員とも常に念頭に置きながら日常の業務を行っている。	「普通の家庭生活、人権、自立、地域との交流、寄り添い」を大切にされた法人理念と、「明るさ、若さ、元気、笑顔」をモットーにしたホーム理念を玄関の目につく場所に掲示している。職員で共有して実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩の中で地域の方々と挨拶を交わしたり、運営推進会議において自治会、老人会などの行事の参加についてご意見を頂いている。	現在、自治会への加入はできていないが、天気が良ければ毎日のように近隣を散歩し、出会う方々と挨拶を交わしている。コロナ禍でも民生委員や老人会員が運営推進会議に参加している。近所のごみ拾いをしたり、なるべく地域の商店街で買い物をするなど、地域と交流できるよう努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に対する理解を深める為、ホーム便りの発行、グループホームの理解に繋げる為の運営推進会議の充実と地域交流に努めている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回運営推進会議を開き、地域や行政の方々から意見を頂きサービス向上に取り組んでいる。	コロナ禍でも運営推進会議は、感染状況をみて3回開催することができた。参加者は、町福祉課職員、地域包括支援センター職員、民生委員、老人会長、家族で、事業所より現状報告や今後の予定、事故報告などをして質疑応答を行った。前回外部評価の結果と目標達成計画も取り上げ、家族にも評価結果を郵送し報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	斑鳩町の担当課や地域包括支援センターと良好な協力関係を築くよう努めている。	町福祉課へは定期的な報告、事故報告、困難事例の相談報告、介護保険更新手続き・運営推進会議の議事録の提出などを行っている。また、生活保護受給者に関して、町の担当課と連絡を取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定義における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人理念に掲げ、研修の場においても職員に理解を深めてもらえるよう日々取り組んでいる。玄関の施錠については外部からの不審者を防ぐ為に行っており、ご家族にも説明し理解をして頂いている。	ホーム開設以来9年間、法人の理念通り身体拘束例は1例もない。2ヶ月に1回、身体拘束廃止委員会を実施し確認している。防犯上玄関を施錠しているが、出て行こうとされる方はない。また、3月と10月にホーム内研修で身体拘束について取り上げ、職員で共有した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップへ向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加や高齢者虐待防止マニュアルに基づく年2回の社内研修の実施、また行政からの情報を施設内で共有し、虐待に対する理解を深めてもらい虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間の研修計画の中で、権利擁護に関する制度について学ぶ機会を設けて知識を深め、必要時に活用できるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	分かりやすい言葉で丁寧な説明を心がけている。またその都度疑問点がないか尋ねながら、質問があれば納得いただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会、面会時にご意見をお伺いし、日頃から気になることがあれば管理者あてに頂いたご意見を参考に運営に生かしている。	運営に関する家族からの意見は、少ない。新型コロナウイルスの感染状況に対応して面会制限を設けていたが、家族が分かりやすいようLINEのタイムラインで挙げて欲しいとの要望があり、検討中である。利用者から具体的な要望があれば、早期に対応するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1の研修会にて必ず職員全員が発言する機会を設けている。提案された内容が反映されるよう努めている。	職員からは、コロナ禍で家族が玄関で面会するときロールカーテンが欲しい、休憩時間の確保が難しい等の意見があり、管理者が適切に対応を行っている。年3回、自己評価と他者評価及び社長面談があり、明確なキャリアパスや意欲向上を促す制度もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課があり、自己評価と他者評価を行い面談を行っている。またキャリアパスの導入で各自が向上心を持てるよう日々職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要と判断した研修への参加を勧めている。研修内容を施設内研修にて発表してもらい知識の共有を図っている。また新人スタッフには一定期間担当指導者がついて介護力アップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍以前は認知症カフェや他社グループホーム主催イベントへの参加など同業者と交流する機会があり、ネットワーク作りやサービスの質の向上に繋がっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップへ向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人とゆっくりとコミュニケーションをとれるよう努めている。入居初期はご本人のペースに合わせ思いを傾聴するよう心がけている。特に夜間は安心してもらえる環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人に最適なサービスが提供できるよう、ご家族の思いや要望を気軽にお伝え頂けるよう関係作りに努めている。初期はお互いの理解を深められるよう管理者が窓口となりまめに連絡を取り合うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の要望をお聞きし、職員、主治医と話し合い、必要とされているサービスに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや野菜の皮むき等、日常の家事を一緒に行うことでお互い助け合いながら暮らしを共にする関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いを理解し、思いに添えるよう支援を行っている。コロナ禍以前は一緒に楽しんで頂けるよう各種行事には参加をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	面会があれば、保護者の承諾を得た上で、居室などで気兼ねなく話しができるよう支援していた。コロナ禍の現在は一定条件はあるが玄関先で面会頂いている。	コロナ禍でもガラス越しの面会やLINEテレビ電話での面会を実施している。利用者が電話を掛けることや年賀状を出すことの支援を行っている。また、本が好きな方と一緒に図書館に行ったり、草木に興味のある方と一緒に花を植えたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	団らんや外出等の機会を通じて、お互いに話ができるようきっかけ作りをし、共同作業(簡単な家事作業等)でお互いを労り、助け合える関係が築けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップへ向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も管理者を中心にご家族からの相談にも随時対応し、情報交換や求めに応じて助言を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中でニーズを引き出し、ご家族等からもこれまでの情報を提供して頂きその人らしい生活が送れるよう支援している。	入居時に利用者を把握するため、本人や家族、ケアマネジャーなどから生活歴、職歴、趣味趣向を聞き取り、プロフィール書面に記載している。また入居後、食事や睡眠などホームでの生活状況、趣味趣向など18項目を書面に記載している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族や入居前に関わっていた支援者からご本人の生活歴等の情報を提供してもらっている。また日頃の暮らしの中で何気ない会話や行動からも情報を得よう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	勤務交代時に申し送りをすると同時に、引き継ぎノートや生活リズム表などの記事記録、一斉メール等を活用し職員全員が情報共有できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1の研修会で担当者を中心にご本人の課題を話し合い、ケアマネジャーを中心にモニタリングを行い、ご本人ご家族の意向を踏まえた介護計画になるよう努めている。	介護計画の定期的な更新は半年に2回行い、モニタリングは担当職員が作成している。更新時、利用者や家族から改めて意向を聴いている。介護計画の内容は健康面や動作面だけでなく、趣味趣向も反映された「その人らしさ」が伺えるものとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を分かりやすく個別に記録し、毎月のケアカンファレンスで情報共有し、介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態やご家族の状況に合わせて柔軟な対応を行っている。要望があれば受診対応や入退院時の送迎や手続き、洗濯物などの支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップへ向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所として持っているネットワークを生かし、ご本人の状況に応じた支援を行えるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診や往診時に本人の変化等について相談をしている。事業所の看護師が適時訪問を行っている。変化があればその都度ご家族に報告をしている。	事業所の協力医が、月2回訪問診療を行っている。利用者個々のかかりつけ医も受け入れている。歯科医は月1回往診があり、希望すれば口腔ケアを受けられる。耳鼻科医が年1回訪問し、耳掃除と診察を行っている。法人の看護師が、週2～4回顔を出し、健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員として看護師を配置しており、医療への対応もできる体制作りをしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	周辺の病院の地域連携室と情報交換し、良好な関係を構築している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の意向を確認し、ご本人の体調の変化に合わせてかかりつけ医、看護師も交えたカンファレンスを行っている。また可能であればご本人からの意向も聞いている。この数年はないが過去にホーム内でのお看取りも経験している。	看取りに関する指針があり、入居時に説明している。同意書もある。毎月の研修で年2回は老人医療をテーマとし、看取りも取り上げている。バランスが取れた食事や毎日の散歩、利用者の趣味趣向を大切に支援を行っており、この数年看取りの例がない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月1の研修にて定期的に応急手当や急変時の対応について看護師を中心に話し合い、職員全員が介護職としてできるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行うと同時に避難場所や方法などについて話し合っている。また、月1の研修でも水害時の対応を誰もができるように周知している。	火災想定避難訓練(夜間想定含む)を、年2回実施している。事業所は浸水想定区域で、大雨洪水警報発令で全員2階に上ることに決めている。壁に緊急連絡網とハザードマップを貼り、緊急時の対応を記した防災計画書を置いている。備蓄は、食料と水を2～4日分と、毛布、タオル、オムツなども用意している。	自治会には加入できていないが、運営推進会議に民生委員や老人会の方の参加もあり、会議で防災についての話題を取り上げ、地域との連携ができればさらに良いと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップへ向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であると考え、「お世話させて頂いている」という思いを常に意識しながら対応している。	利用者を人生の先輩として敬い、できないところを「お世話させて頂いている」という思いで支援している。ホームは生活の場であり、言葉が丁寧すぎないように名前は苗字に「さん」付けをしている。また、排泄時の声掛けは、周りに気づかれぬように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の認知症状や性格に合わせて、思いを表現出来る場面や時間を作り、自己決定できるよう支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースに合わせて、その日その場面で臨機応変に対応できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りやヘアセット、お化粧品などその人らしい身だしなみができるよう支援している。また、可能な限り洋服はご自身で選んでいただけるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自家農園で採れた野菜の選別や食事の準備、片付けは一緒に行っている。コロナ禍前は職員も一緒に食卓を囲んで食事を楽しんでいた。	食事は全て職員が手作りしている。食材の分別、下ごしらえ、食器拭きなどを利用者もできる範囲で行っている。塩分制限など配慮が必要な人には別に作っている。自家農園でつくる野菜も取り入れ、栄養バランスや盛り付けも工夫している。また、外食はコロナ禍で出来ないが、希望を聞き牛丼やハンバーガーなどを買ってきたこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量はその都度把握、記録し情報共有している。その方の健康状態に応じた適切な摂取量となるよう支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを促し、支援を行っているので入居者様も歯磨きが習慣となっている。また希望者には訪問歯科による定期受診にて口腔ケアも毎月行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップへ向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、自尊心に配慮しながら声かけや介助を行い、可能な限りトイレにて排泄して頂けるよう支援している。	現在利用者18名中、布パンツ使用者9名、リハビリパンツ使用者9名で、おむつ使用の方はおられない。オムツ使用で病院から退院されてきた方も、トイレに座って自然は排泄ができるよう支援し、リハビリパンツや布パンツになられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便リズムの把握、散歩や体操、水分補給等の介護職が出来る工夫をしている。それでも便秘がちな方には医師、看護師に相談しながらできるだけ薬に頼らない排泄になるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、一人ひとりの入浴時間はゆつくりと楽しんでいただけるよう配慮している。	入浴は、週3回入ることができるよう支援している。同性介助を希望する方はいない。湯舟が大きく、3人で仲良く入られる方もいて、色々な話をされ、楽しい時間が流れることがある。また、入浴剤を使って、色や香りを楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人一部屋の居室にて安心して休息していただけるよう部屋の配置の工夫や快適な室温、静かな環境作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月1の研修では薬について勉強する機会を設け知識を深めている。服薬時はお互いに日付、名前等を確認し、確実に吹くよう出来ているかの確認も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味趣向や生活歴などの背景を考慮しながら本人が役割を持つことで生き生きとした生活ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の身体状況や気候に合わせ近所を中心に散歩をするなど毎日外出の機会を作るよう努めている。また感染予防に努めながら日々の楽しみとなるよう近所以外での外出の機会を多くとっている。	天気が良ければ、毎日のように近隣を散歩している。コロナの感染が落ち着いた昨年10月には、生駒山上遊園地、奈良公園、馬見丘陵公園のイルミネーションに行った。コロナ禍前は、年3回は遠出のほか、初詣、花見、紅葉などに出掛けていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップへ向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は保護者が行っているが、個々の買い物の機会にはご自身でレジにて支払いをして頂く等のこれまでしてきたことの継続となるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から要望があった場合や必要時には電話の操作を支援したり、話がうまく伝わらない場合は職員が間に入るなど繋がりを大切にできるよう支援している。また出来る方には年賀状を書いて頂く等の機会も作っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一緒に作ったカレンダーや作品、季節の掲示物や季節の花を生ける、外出先での写真を飾る等し馴染みのある居心地の良い空間作りに努めている。	リビングには、6名が座れる六角テーブルと3名のテーブルがあり、ソファはテレビを囲み、お互いの顔が見れるよう配置されている。各ユニットにトイレが3ヶ所あり、車いすの方も利用しやすい構造になっている。壁には、季節が感じられる装飾やカレンダー、利用者の写真などが貼られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングやダイニング等で自由に好きな場所で心地よく過ごして頂けるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具や寝具を持参して頂いている。また思い出の写真やご家族からの贈り物なども居室に置いてもらい、落ち着く空間作りとなるよう工夫している。	各居室入り口には、リースが付いた名札がある。エアコン、ベット、椅子、カーテンはホームが用意し、タンスや馴染みの物、仏壇などを持ち込み、写真やお好みのもので飾って、その方らしい部屋作りがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自身で出来ることは「見守り」し、能力を出来る限り生かして頂けるよう工夫し、支援している。		